

**令和2年度Sport in Life推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)**

「笑って！ワクワク！スポーツ体験プロジェクト！」

「吉本興業株式会社」

2021年2月12日

1. 事業の実施概要

「吉本興業株式会社」

事業概要

子どもを対象にお笑い芸人やスポーツ選手とのふれあい・スポーツ体験イベントを実施し、スポーツ実施のきっかけづくりを行うとともに、スポーツ能力測定を実施し、得意なスポーツを発見してもらう。同イベント内で、保護者の女性を対象にスポーツ科学の視点を取り入れた「姿勢を美しくする」ワークショップを開催し、スポーツ実施率向上を図る。

実証フィールド

イオンモールりんくう泉南、イオンモール鶴見緑地、京セラドーム、ヤンマースタジアム長居、大阪城公園、天王寺スポーツセンター

代表団体

吉本興業株式会社

構成団体

株式会社ワコールホールディングス、学校法人近畿大学、一般社団法人スポーツ能力発見協会*
※「*」はSport in Lifeコンソーシアム加盟団体

ターゲット

子ども(未就学児～小学生)、女性

プロジェクト 実施内容

1. 子どもを対象に、スポーツ実施率の向上に繋げることを目的とし、下記を実施。

①最新の則的機器による「スポーツ能力測定会」を実施

・子どもの運動能力を測定し、データ分析することで「得意なスポーツ」を発見、能力を伸ばす。

②イベント「よしもとキッズプロジェクト」を開催

・トップアスリートの指導の元、スポーツと触れ合うことで、身体を動かすことの楽しさや、アスリートへの憧れを体感できる。

③プロスポーツクラブの試合観戦イベント実施

・迫力あるプロスポーツを生で観戦することで、スポーツへの興味関心を今まで以上に抱き、将来の夢に「スポーツ選手」と言う子どもが増えることで、スポーツと向き合う考え方を変えていく。

2. 女性を対象に、スポーツ実施率の向上に繋がることを目的とし、下記を実施。

①歩き方のワークショップ

・女性向けの「歩き方のワークショップ」を実施し、プロのインストラクターから知識を得る。

②女性向けの「自宅でできるスポーツ」動画を配信

・本企画に興味を持たれた女性、または人に身体を見せることに対して消極的な方に対して、「自宅でできるスポーツプログラム」として撮影～編集。「動画を見る」ことで生活の中のスポーツを自宅でも継続して意識できるようにする。

3. 子どもを対象とした、スポーツ環境づくりを通じて、スポーツ実施率の向上に繋げる。

①「大阪スポーツ推進委員協議会」で、地域(大阪市各24行政区)でのスポーツイベント等を実施

・2017年から大阪市と包括連携協定を結んでおり、大阪市協力の下、展開。

・吉本興業所属の「大阪24区住みます芸人(地域協議会と連携した活動を展開)」が参加し、子ども達・保護者達と一緒にスポーツを体験できる場を企画～実施。



2. スポーツ実施頻度や実施意欲の改善効果

効果検証の概要

ターゲット	現状	目標	実績	効果検証方法
子供	一日に運動時間30分以上している人が <u>全体の39.1%</u>	一日に運動時間30分以上している人が <u>全体の50%</u>	一日に運動時間30分以上している人が <u>全体の65.2%</u>	事前、追跡のアンケート調査結果から比較分析
		スポーツの実施意欲が向上した人が <u>全体の80%</u>	スポーツの実施意欲が向上した人が <u>全体の93.4%</u>	
女性	スポーツへの興味知識がなく、実施意欲がない人が <u>全体の42.6%</u>	スポーツへの知識・興味が向上した人が <u>全体の70%</u>	スポーツへの知識・興味が向上した人が <u>全体の86.2%</u>	事前、追跡のアンケート調査結果から比較分析
		スポーツの実施意欲が向上した人が <u>全体の60%</u>	スポーツの実施意欲が向上した人が <u>全体の89.5%</u>	

効果検証の結果

子供

【実施時間の変化】

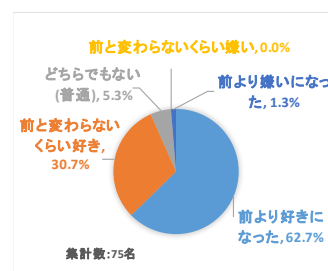
・運動やスポーツを行う時間が30分以上が、イベント参加前では39.1%であったが、1か月経過後では65.2%と、スポーツ実施習慣の定着が一定程度見られた。

【実施意欲の変化】

「このスポーツ体験イベントに参加して運動やスポーツが好きになったか」という設問に対して、「前より好きになった」62.7%「変わらないくらい好き」30.7%、合計93.4%となり、児童の運動やスポーツへの意識の向上が見られた。

【スポーツの実施意欲（子供）】

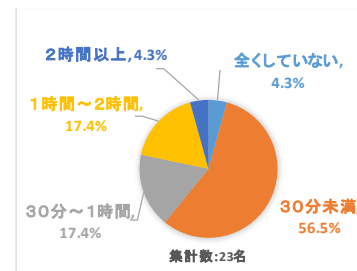
事後



運動、スポーツが好きになったか

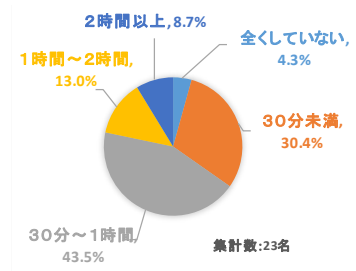
【実施時間の変化（子供）】

事前



参加前、どれくらい運動、スポーツをやっていたか

事後



参加後、どれくらい運動、スポーツをやっているか

女性

【スポーツへの知識・興味】

「自宅で気軽にできるカラダの動かし方」についての動画視聴後、「非常に意識が高まった」27.9%「少し意識が高まった」58.3%、合計86.2%と意識の改善が見られた。

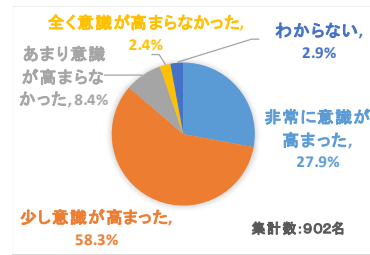
【実施意欲の変化】

これまでの運動、スポーツの実施状況で、「不定期」「全くしていない」と回答した38名に対して、89.5%が「したい」と回答しており、意識の向上が一定程度見られる。

※氏名を記載されていない方もおられ、追跡調査不十分

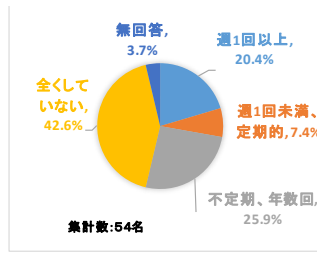
【スポーツへの知識・興味（女性）】

事後



継続して行う意識が高まったか

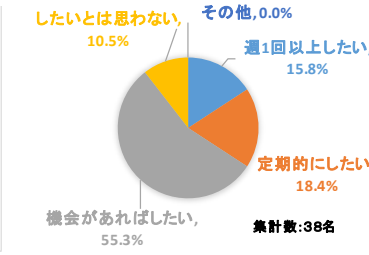
事前



これまでの運動、スポーツ実施状況

【実施意欲の変化（女性）】

事後



運動、スポーツへの意欲の変化

3. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

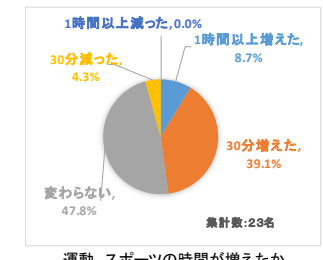
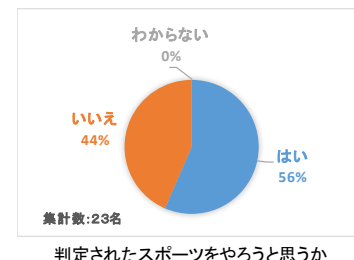
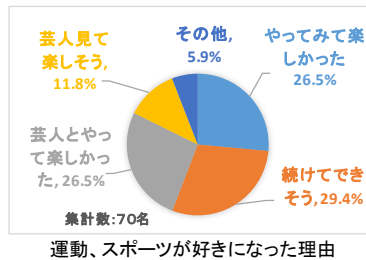
スポーツ実施改善要因の分析結果概要

ターゲット	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（検証結果）
子供	スポーツをする機会、場所がない 「スポーツ」に対して、得意分野が見つけられていない。	<p>【スポーツをする機会、場所がない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説を検証した結果、アンケート結果より、仮説はおおむね正しかった。 ・スポーツのできる条件(自由記述)について、「やれる場所がない」「一緒にやる人がいない」「やる機会がない」の回答が多くなっている。 <p>【「スポーツ」に対して、得意分野が見つけられていない。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説を検証した結果、アンケート結果より、仮説はおおむね正しかった。 ・言われたスポーツをやろうとしている子どもが56%を占め、運動・スポーツが30分以上増えた子どもは47.8%を占める。スポーツをするきっかけになっている。
女性	仕事や家事が忙しく、スポーツに時間を割くことができない。 スポーツをすることを面倒だと感じてしまう。	<p>【仕事や家事が忙しく、スポーツに時間を割くことができない。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説を検証した結果、アンケート結果より、仮説はおおむね正しかった。 ・スポーツのできない、やらない理由について、「時間がない」42.0%と一番多かった。 <p>【スポーツをすることを面倒だと感じてしまう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説を検証した結果、アンケート結果より、仮説は正しいとはいえなかった。 ・「面倒」8.0%、「汗をかくのが嫌」5.7%と、それほど多いとは言えず、阻害要因とは言えないことが示唆された。

スポーツ実施改善要因の分析結果詳細

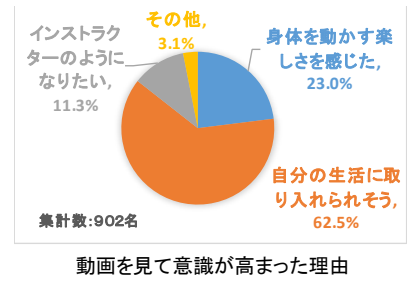
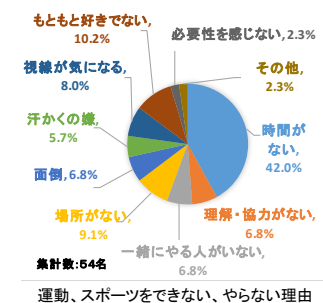
子供

- ・ イベントに参加して運動やスポーツが好きになった理由の回答で、「やってみて楽しかった」（26.5%）という結果より、身体を動かす楽しさを感じることで、スポーツ実施への抵抗を軽減できるということを示唆している。
- ・ 判定されたスポーツをやろうと思うかの設問に、「はい」（56%）という結果より、自分に合ったスポーツを見つけてもらったことが示唆された。それにより、運動、スポーツへの意欲や実施時間の増加につながっている。



女性

- ・ 運動、スポーツをできない、やらない理由の回答で、「時間がない」（42.0%）が最も多く、「もともと好きでない」（10.2%）「場所がない」（9.1%）「視線が気になる」（8.0%）と続いている。
- ・ 「自宅で気軽にできるカラダの動かし方」についての動画を配信し、動画視聴後の生活の中でのスポーツに対する意識が高まった理由について、「身体を動かす楽しさを感じた」23.0%、「自分の生活に取り入れられそう」62.5%となっており、動画視聴が運動するきっかけとなっている。



事業継続や横展開に向けたポイント、課題

事業継続に際して必要な要素は主に次の点であると考えられる。

- ①人員確保（スポーツ指導者、スポーツファシリテーター）
- ②会場の確保（スポーツを実施する場所）
- ③財源確保（スポンサー費用、自治体予算）
- 今回、大阪市スポーツ推進委員協議会との連携等の、自治体とのコラボレーションを通して感じたことは、コロナウイルスの影響もあり、イベントの回数が制限されていた。普段だったらもう少し実施しているという声もありながら、少ない回数での実施となった。
- 内容としては、指導をするというよりもスポーツをできる場所を提供し、自由にスポーツをしてもらった。創意工夫が少なく、私どもが入る際は講師やアスリートの派遣により、実りあるプログラムを実践出来た。好きな人は来るが、苦手な人は参加しづらいイベントとなっており、弊社が連携することで、苦手意識を持っている人が、芸人を入口として参加されている方もおられた。次年度実施の際は、年間通したスケジュールプランを大阪市と調整し、実施に繋げて行ければと考えている。

次年度以降の事業継続、横展開の計画

- 教育委員会及び小学校、更には地方自治体との連携作りが理想的なスキームであると感じた。
- 実証実験を行ううえで、1ヵ月後アンケートが必須となります。私どもはイベントではお会いできても、以降お会いすることもできず、電話をしても出てもらえない、メールも返ってこないという方が多発した。イベント終了後直ぐのアンケートに関しては、書き終えるまで帰さないという方法を取っていたので、取得率100%でしたが、1ヵ月後アンケート取得の難しさを感じた。
- 今回実施した、地方自治体と連携したスポーツ推進委員との取組みは継続的に行って行くべきだと感じた。コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、実施するのかわからず、イベント実施出来る場の紹介も後手になってしまった感はあるが、小学校との取組み・検証を行いながら、その小学校に属する地方自治体とも連携し、小学校周辺でスポーツが出来る場の紹介ができるようになれば、街ごとの「スポーツTown」を作っていくうえで、全国展開も出来る企画ではと感じます。
- コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、リアルでのイベントは大打撃を受けました。次年度以降も状況は大きく変わらないのではとされますので、オンラインでの取組みをしっかりと盛り込み、展開したく考えている。
- 次年度以降は小学校と連携した取組みとすることで、より実証の精度を高めたく考えております。不特定多数の中からの選定ではなく、運動得意な子もいれば苦手な子もいる、そういった環境での実施を目指します。「知る→する→見る」のフローは変えず、自身の能力を知る環境を作り、様々なスポーツを体験できる場を構築する。生でのプロスポーツ観戦に限らず、体育館をお借りしてのパブリックビューイング等も検討し、学校内で完結できるプログラムを推進する予定です。

今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組

- 上記記載したように、教育委員会及び小学校、更には地方自治体との連携を視野に入れて次年度以降検討したく考えております。そういった際に、事務局に相談すれば、@@市が興味を示してくれている、@@小学校がこういった事に前向きなど、情報提供頂き、仲介頂けると非常に助かります。
- また、私どもも今事業に限らず様々なスポーツイベントを行おうとしております。そういった際に、加盟されている各団体様とは相互で連携を取りたく考えております。お互いの強みを活かすことで、より大きな事業を成し得られると感じます。加盟団体同士のマッチングの場というのも検討頂けると、より良いイベント構築に繋がり、スポーツ実施率の向上にも役立つのではと感じます。